

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	総合生存学館	カテゴリー	人文科学総合科目群	横断区分	文系横断型				
授業科目名 (英訳)	心の哲学-比較思想 Philosophy of Mind: A Cross-Cultural Approach		講義担当者 所属・職名・ 氏名	総合生存学館 准教授 DEROCHE Marc-Henri		開講場所	橘会館				
配当学年	修士 博士後期 専門職	単位数	2単位	開講年度・開講期	前期	曜時限	火1限 (8:45-10:15)	授業形態	講義・ 演習	使用言語	英語
〔授業の概要・目的〕											
<p>本講義では、心という概念、あるいは「身心」を通して、自己の知という根本的なテーマについて考察する。アジアの哲学、西洋哲学、そして認知科学における現代の研究を資料として、セルフマネジメントがいかに回復力と人生の質を高めつつ、人類の生存にとって基礎的な重要性を担っているのかについて文化横断的に検討する。</p> <p>「智慧への愛」(philosophia)という定義そのものをはじめとし、我々人類の状態、性質、課題と可能性、様々な伝統における種々の認識方法と心身技法について学ぶ。特に、現在「マインドフルネス」の名のもとで科学的に研究され、世俗的環境の中で応用されているあらゆる古代アジア(特に仏教)の技法について批判的かつ実践的に検討する。これらを大きな哲学的枠組みのうちに置き、自覚の発展、人類の相互理解と能力開花、倫理的な問題の検討、そしてより効果的な振舞いを促進するために、総合生存学の一部として刷新的な方法論について考察する。</p> <p>「聞・思・修」の教授法に即して、各回主にテーマごとの講義を行い、議論や自己内省、また実践的な修練方法も行っていく。</p>											
〔到達目標〕											
自覚と心身技法に関する明確な哲学的概念を理解することで、人生における自らの哲学とセルフマネジメント能力を育む。											
〔授業計画と内容〕											
<p>【第1回】イントロダクション:東洋と西洋における「智慧への愛」(philosophia)</p> <p>【第2回】人類の状態についての考察</p> <p>【第3回】苦と向かい合う:回復力の向上と人類の能力開花</p> <p>【第4回】認識方法と心身技法の分類</p> <p>【第5回】今この瞬間に集中するための修練</p> <p>【第6回】意図と注意力、「マインドフルネス」と気づき</p> <p>【第7回】体と心をつなぐものとしての呼吸・言葉</p> <p>【第8回】体と感覚</p> <p>【第9回】気分と感情</p> <p>【第10回】心と思考</p> <p>【第11回】自己と他者:共感と「ハートフルネス」</p> <p>【第12回】我と無我:自己中心主義の根源についての考察</p> <p>【第13回】人類の相互理解と利他的行為</p> <p>【第14回】自覚と行動:経験の流れ</p> <p>【第15回】まとめとフィードバック (スケジュールは変更の可能性あり)</p>											
〔履修要件〕											
特になし											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
平常点とレポートにより評価する。											
〔教科書〕											

印刷資料を配布する。

〔参考書等〕

Hadot, P. (Translated from the French by Michael Chase) 『What is Ancient Philosophy?』 (Belknap Press of Harvard University Press, 1995)

Williams, J. M. G., Kabat-Zinn (eds.) 『Mindfulness. Diverse Perspectives on its Meaning, Origins and Applications』 (London and New York: Routledge, 2013)

Zelazom, P. D., Moscovitch, M., and Thompson E. (eds.) 『Cambridge Handbook of Consciousness』 (Cambridge and New York: Cambridge University Press, 2007)

袁輪 顕量 『仏教瞑想論』 (春秋社、2008年)

中村 元 『インドと西洋の思想交流』 (春秋社、1998年)

追加の参考書等を授業中に適宜紹介する。

〔授業外学修（予習・復習）等〕

指定した学術論文の講読とレポートの作成が必要である。

〔その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）〕

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。